

シリーズ第13話

皮膚科の病気について



皮膚の病気は、皮膚だけに起るものと、内臓の病気を反映して皮膚に症状が現れるものとに分けられ、アレルギー、感染症、腫瘍などいろいろな病気があります。その中でも今回は2つの症状についてご紹介します。

【メラノーマ(悪性黒色腫)】

皮膚がんの一種で、通常、黒く「ほくろ」のように見えるので「ほくろのがん」と言われています。皮膚の細胞のうち、メラニン色素を産み出す色素細胞(メラサイト)ががん化したものを「メラノーマ」と言います。悪性の腫瘍で、皮膚がんの中で最もたちが悪いと言われるほどです。男女どちらにも発生し、40歳を超えると発生が多くなり、最も多いのが60〜70歳台です。

小児の発生は稀ですが、最近の傾向として20〜30歳台の若年の発生が多くなっています。

日本人は足の裏に発生することが多く、全体の約3割を占め、手足の爪の部分にも多くできることが特徴ですが、手や足だけでなく、どここの皮膚にも発生します。

予防として、レジャーや仕事などで長時間、過度の紫外線を浴びる場合は必ず日焼け対策をしましょう。日焼け止めクリームを塗り、帽子や日傘を使い、長袖を着るなど普段から紫外線に注意を払うことが大切です。メラノーマは発見が早ければ手遅れになることはまずありません。年に2回程度皮膚の点検をしましょう。今までなかった「ほくろ」や「しみ」ができて大きくなってきた、「ほくろ」



新城市民病院
皮膚科
部長医師 濱松 徹

の形がいびつで色にムラがある、「ほくろ」から出血したなど気になる部分ができるときは素人判断せず、また、取るうと思っ ていじったりせずに皮膚科専門医に診てもらいましょう。

メラノーマの治療方法は、再発予防のため患部より少し広めに切除します。リンパ節への転移により脳や肝臓など全身へ転移することもあるので、必要に応じた抗がん剤治療を実施することがあります。

【糖尿病に伴う足の病気】

近年、生活習慣病に伴う皮膚の病気も増えています。その中でも特に糖尿病は皮膚科の病気と密接に関係しているため注意が必要です。

糖尿病になると細菌や真菌(カビ)に対する抵抗力が弱まり、

皮膚にさまざまな変化が起こります。

初期には、皮膚の乾燥、水虫、たこ、魚の目などが見られやすく、血糖値の高い状態が続くと、足の感覚が鈍くなる、動脈硬化により足の端まで血液が流れにくくなる、感染に対する抵抗力が低下するなどの症状が現れます。

糖尿病の方は日ごろから足の観察や手入れが重要です。足を清潔に保ち、足にあつた靴を履き、低温やけどやケガに注意し、傷や皮膚の変色の有無をチェックしましょう。

足の変化に気がついたら早めに皮膚科専門医に受診し、適切な治療を受けてください。

